

# 山のトイレを考える会

〈2016年度認定〉

豊かな自然や文化を有する山岳エリアを認定する日本山岳遺産。それぞれの認定地では美しい山を次世代へつなげる活動が行なわれている。第9回は、大雪山系や十勝連峰など北海道の山で、「山のトイレを考える会」を紹介する。

一ノ瀬伸二取材・文 山のトイレを考える会 写真



1. 2019年に設置された美瑛富士の携帯トイレブースにて。山のトイレを考える会では、ブースの清掃や点検などの維持管理を担っている 2. 独自に制作した「山のトイレマップ」。登山口や宿泊施設などに置いている 3. 山のトイレ問題に関する啓発ツールを登山者に配布するメンバー

## 活

動のきっかけは山のトイレマナーの悲惨な状況だった。約20年前、大雪山系トムラウシ山や十勝連峰美瑛富士のテント場周辺では、糞尿やトイレ紙が散乱していた。「あまりにひどく、なんとかしなければいけないと思いました」

「山のトイレを考える会」の発足初期から活動に参加する3代目代表の小枝正人さんはこう振り返る。そうして問題意識をともしする地元山岳ガイドや大学の研究者、一般登山者らが集まり、北海道をメインに山のトイレの問題解決へ取り組み始めた。

同会が長らく注力してきたのが、登山者への啓発活動だ。道内の主要な山のトイレの位置情報を掲載したマップを制作。情報は毎年更新している。山のトイレのマナーガイドや使用済みトイレ紙の持ち帰りのための袋も作り、登山者に配布している。

また設立当初から「山のトイレを考えるフォーラム」を開催。活動報告とともに、課題を討論する場としている。フォーラムで配布する資料集は、道内外から山のトイレ問題に関する寄稿を募り、ホ

ームページでも公開することで広く情報発信している。

山のトイレ環境改善や携帯トイレブース設置に向け、行政への働きかけも続けてきた。美瑛富士の避難小屋周辺には2019年、固定式のブースが環境省によって建てられた。同会を含む山岳関係9団体が管理連絡会を結成し、清掃や点検を分担する。トムラウシ山の南沼野宮指定地へも同年、北海道がブースを増設した。同会も名を連ねる、前年の「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」による機運の高まりが設置を後押しした。

小枝さんは「約20年の活動でようやく目に見える成果が出てきた」と安堵する。現在は旭岳の裏旭野宮指定地へのブース設置をめざして調査を実施している。

「行政に要求するだけではなく、民間団体や一般登山者も含め官民で問題意識を共有し、それぞれができることをしていく仕組みが大切だ。それが少しずつできてきたと感じています」

小枝さんはそう語る。環境改善の手応えとともに「北海道の山をいつまでもきれいに」との思いをもって今後も活動を続けていく。

## 日本山岳遺産基金とは

日本の山々の多様な自然や文化を継承するための基金。山と溪谷社などが2010年に設立し、20年度までに各地の39の山岳地域・団体



日本山岳遺産基金  
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

を日本山岳遺産に認定、安全登山啓発や山岳環境保全などの活動を助成。21年度の認定候補地を募集中。  
sangakuisan.yamakei.co.jp

## Area 大雪山系ほか

## Main activity 山のトイレ環境改善

## Group profile

2000年に設立。北海道の山々で携帯トイレの普及・啓発、携帯トイレブースの維持管理などを行なう。運営委員13人、個人78人、10団体（2021年3月現在）の会員で活動している。  
http://yamatoilet.jp

